

Yamaneko Honyaku Club 20th anniversary



やまねこ翻訳クラブ
since 1997

オフィシャルサイト <http://www.yamaneko.org/>
20周年特設サイト <https://yamaneko20.jimdo.com/>
Twitter <https://twitter.com/yamanekohonyaku>



やまねこ翻訳クラブとは

やまねこ翻訳クラブは、児童書と翻訳に興味がある人たちが集まって作ったネット上のコミュニティです。はじめは会員のほとんどが、翻訳書を出したことの無い学習者でしたが、20年たった今では、翻訳者が40名以上在籍する集団になりました。出版社を立ち上げた会員もいます。会員は日本のみならず海外にもいて、全部でおよそ100名。ホームページ、掲示板、メールマガジンなどを通じて、勉強会や、情報交換、情報発信にいそしみ、たのしく交流をつづけています。

1997年	10月	やまねこ翻訳クラブ発足
	12月	第1回オンライン勉強会
1998年	4月	やまねこ翻訳クラブHPオープン
	8月	メールマガジン「月刊児童文学翻訳」創刊
	9月	第1回絵本翻訳コンテスト事後勉強会
	12月	第1回やまねこ賞発表
2001年	11月	中村悦子・中釜浩一郎原画展開催
2002年	10月	活動場所が現在のWEB掲示板に移動
2005年	9月	第1回レビュー勉強会
2006年	11月	『大人のフアンタジー読本 未知なる扉をひらく180選』出版
2007年	10月	やまねこ翻訳クラブ創立10周年
		10周年記念世界の文学賞ラリー、絵本翻訳コンテスト開催
2008年	5月	「月刊児童文学翻訳」100号発行
2013年	7月	第1回オンライン読書会(東京)
2014年	5月	小竹由美子さん、キヤシー平野さんを囲んで高松で読書会
2017年	10月	やまねこ翻訳クラブ創立20周年
		各地書店で20周年記念ブックフェア、トークイベント





やまねこ ミニトーク その1

●ハンドル名で呼び合います

やまねこ翻訳クラブの仲間はハンドル名（ネット上の名前）で呼び合います。由来は、実名をもじったものから、童話のクマのお母さん、オデュッセイアにでてくるお姫様、M・エンデの「モモ」の主人公までと、様々です。オフ会で実際に顔を合わせたときにも本名ではなくハンドル名を名乗ります。大きな声で呼ばれてお店の人に聞かれ恥ずかしい思いをしたり、仕事で名刺交換をするときに思わずハンドル名を言いそうになったりした仲間もいるんですよ。(by ニャン公)

●大所帯で作り上げた1冊の本

「大人のためのファンタジー・ブックガイドを執筆しませんか？」2006年3月、なんとなんと、当クラブは出版社から1冊丸ごと本の執筆を依頼されました。初の大仕事に不安もありましたが、喜んでお引き受けすることに。作業参加者は全会員の約半数、50人近くにのぼり……！ その大所帯がほぼウェブ上の掲示板でのやりとりのみで、同年11月の出版にこぎつけました。『大人のファンタジー読本』、図書館などでどうぞ。

(by キャトル)

●メールマガジン「月刊児童文学翻訳」はオンラインで編集

「月刊児童文学翻訳」は、2018年8月で創刊20周年。現在、号外を含めて年8回発行しています。編集はすべてオンライン上の掲示板で行っているため、どこかに集まって作業するということはありません。毎号、月初に各記事の初稿が掲示板にアップロードされ、15日の発行日までチェックと改稿が繰り返されます。発行日が近づくにつれ、発言数もどんどん増え、発行間際ともなると、もうチャット状態！ 毎号この作業を経てメルマガを配信しています。(by MOMO)

●児童書の原画展を開催したことも

2001年11月、やまねこ翻訳クラブは「中村悦子・中釜浩一郎原画展～海外児童書の世界を描いて～」を早稲田奉仕園セミナーハウスで開催しました。『エリコの丘から』『狼がくるとき』『アリスの見習い物語』『のっぽのサラ』『草原のサラ』など、児童書の表紙絵や挿絵数十点が並ぶ様子はまさに圧巻。

原画ならではの力強く、あるいは繊細な描線や色使いにひたすら感動。熱風が吹いてくるような迫力でした。

(by YUU)